

補助事業番号 ②②－1－120

補助事業名 平成 22 年度 聴覚障害児の教育指導補助事業

補助事業者名 財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

在宅聴覚障害者の指導や特別支援教育の中でも特に困難とされている聴覚障害児教育の効果を高めるため、教育機器や研修体制の整備を行い、もって文教、環境その他の公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容等

上記の目的を達成するため下記の事業を実施した。

ア FM 補聴システムの無償貸与

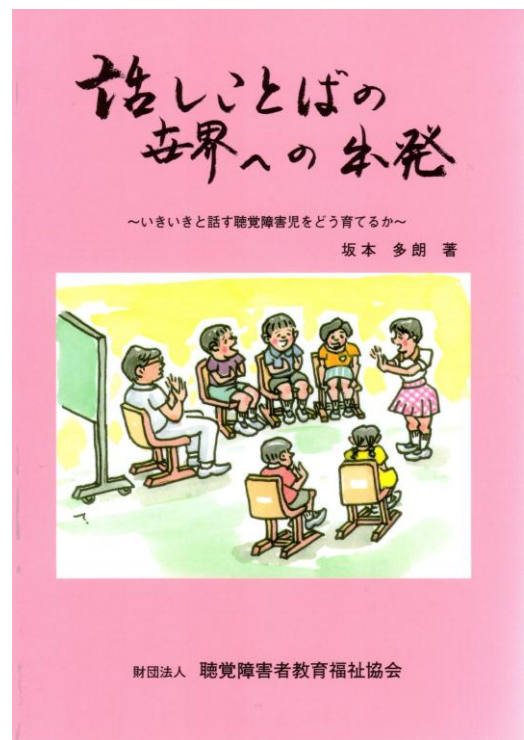
この装置は、補聴器を装用した聴覚障害児が、周囲の雑音に妨げられずに音声の聴取を可能にさせるものである。補聴器等の聴能機器専門メーカーリオン株式会社が開発したもので本年度から貸与を開始し、50 組を購入して家庭に貸与した。本年度の貸与実績は 50 台で貸与率は 100%であった。

イ 両親指導書「話しことばの世界への出発」

(再版) の無償配布

現在学校現場のみならず乳幼児期にまで遡って手話の導入が主張されている。その実状に鑑み、斯界の先達が百年余にわたって営々と研究開発し続けてきた「聴覚口話法」を、特に言語獲得初期の乳幼児・児童の育成に生かすことが今こそ重要であると考え、平成 15 年度に「子育てに生かす聴覚口話法」、平成 17 年度に「話し言葉から書き言葉へ」、平成 19 年度に「のびのびと聴いて話して読んで書く」、平成 21 年度に「話しことばの世界への出発」を刊行した。非常に大きな関心と呼び、全国の聾学校や保護者からその再版を求める声が多数寄せられ、再販配布した。

B6 判 240 頁 1000 部を家庭配布



ウ 移動母子教室の開催

両親教育と幼児の指導、各2日間6ヶ所で実施

開催地 鹿児島市、前橋市、岡山市、福岡市、酒田市、松山市で開催。

専門家講師による指導で参加者の日頃の不安が解消されると同時に大きな自信を身につけることができたという好評であった。



エ 指導者講習会の開催

開催地 千葉市

千葉県立千葉聾学校に100名の参加者が集まり5人の専門家講師の指導を熱心に受けた。活発な論議がたたかわされ実のある専門研修の場となった。



2 予想される事業実施効果

① FM 補聴システム貸出事業

聴覚活用の拠り所として全国的に貸出の希望が寄せられ、多くの学校・施設での利用が広まってきている。補聴効果はもとよりコミュニケーション能力の伸長にも良い効果をもたらすと好評である。

② 指導誌の刊行

「話しことばの世界への出発」再版刊行。前年度刊行の「本書」が言語活動に焦点を当てわかりやすく具体的に著されていたため全国的に好評で刊行した部数はすぐに配布を終了し再版が待たれていたところである。家庭はもとより学校現場や教員養成機関等でも広く活用されている。

③ 講習会の開催

斯界の専門家がなかなか得られない地方を中心に当協会の専門性豊かな講師陣による保護者・教員を対象とした移動母子教室・指導者講習会は、毎年好評で一度開催すると次年度も必ず申し込む状態が続いている。より具体的な内容で行われることから保護者や教員の手探りの不安を解消し、自信をもって子育てに取り組むことができるようになったという感想が多数寄せられている。

3 本事業により作成した印刷物等

「話しことばの世界への出発」再販 1000 部 B 6 版 240 ページの無償配布により保護者に子育ての大きな拠り所を与えることができた。

4 事業内容についての問合せ先

団体名： 財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

住所： 〒162-0051

東京都新宿区西早稲田 2 丁目 2-8

代表者： 会長 山東 昭子

担当部署： 事務局

担当者： 専務理事 小林 明

電話： 03-3203-4765

F A X： 03-3203-4765

E-mail：wasedanomori@amethyst.broba.cc

U R L：<http://www13.plala.or.jp/wasedanomori/>